

令和7年度町政懇談会議事録

- 1 日時 令和7年10月14日(水)14:00～16:02
- 2 場所 郡山市 労働福祉会館
- 3 出席者 伊澤町長、平岩副町長、森副町長、館下教育長、横山復興推進課長、大浦戸籍税務課長、中野農業振興課長、藤本建設課長、中里住民生活課長、志賀健康福祉課長、木幡教育総務課長、秘書広報課高橋課長補佐、建設課松原支援員(13人)

4 町民出席者 4人

5 町長あいさつ概要

今年度の町政懇談会では、町の復興状況を始め、特定帰還居住区域における立入規制緩和のほか、営農や学校再開に向けた取組状況、令和8年度町税の課税の方向性について説明し、皆さんからのご質問やご意見をお伺いするとともに、意見交換を通じて、今後の町政運営に活かしてまいりたい。

○町の復興に向けた主な取組について

1)町の復興状況について

駅東地区では、商業を中心とした賑わいを形成するエリアとして整備を進めており、役場庁舎北側の公設商業施設でイオン双葉店が8月1日にオープンした。

町体育館跡地には、公設商業施設として居酒屋・カフェ・鉄板焼きの3店舗の整備を進めており、令和8年春のオープンを目指している。町内の生活環境が大きく向上し、町に賑わいをもたらす中核になるものと期待している。

駅西地区では、良好な住宅地を形成するエリアとして整備を進めており、昨年6月には、えきにし住宅全86戸が完成し、現在75戸に入居されている。今後は、えきにし住宅の西側にある町有地で造成工事等を進めており、住宅の分譲地を想定した利活用を進めていく。

通所・訪問介護サービス等の提供を目指した「複合的福祉サービス拠点」の整備を令和9年度の開業に向けて進めており、昨年2月に開所した双葉町診療所とともに、皆さんの関心が最も高い医療・福祉分野を更に充実させていく。

2)住宅の確保について

昨年度から町内の住宅再建を促進するため、住宅の取得・修繕等に係る費用のうち、福島県の支援策と併せて、新築住宅の取得で上限800万円、中古住宅の取得または修繕等で上限300万円を補助している。

町の現住人口を更に増加させるため、本年6月に町内への民間賃貸住宅の誘致を目的とした建設費補助制度を創設し、申請の受付を開始している。

今後とも町内の居住人口の増加に拍車がかかるよう、住宅の確保に努めていく。

3)特定帰還居住区域について

通行証の申請や所持がなくとも特定帰還居住区域に立ち入りが可能となる「立入規制緩和」について、下長塚、三字、羽鳥行政区の対象区域においては、令和7年11月4日に実施する方向で調整を進めている。「立入規制緩和」が進むことは、特定帰還居住区域の避難指示解除に向けた大きな前進であり、下長塚、三字、羽鳥行政区の対象区域において、令和8年度内の避難指示解除が実現できるように今後も取り組んでいく。

昨年12月から実施している第2回目の帰還意向調査の結果を踏まえて、特定帰還居住区域の見直し作業も進めている。

国が示した「2020年代をかけて帰還意向のある住民が帰還できるように避難指示解除の取組を進めていく」という方針を実現できるように今後とも国や関係機関との協議を進めていく。

4)営農再開の状況について

避難指示が解除された下羽鳥・長塚地区のほ場整備事業、上羽鳥の基盤整備事業、中田地区の養液栽培施設整備事業など、各地区におけるハード整備が着実に進捗している。

水稻の実証栽培を長塚字谷沢町や新山字天王下地内で実施しており、出荷制限の解除に向けた取組も進めている。

今後は、農業の基盤整備と担い手への集積を通して、営農再開に向けた取組を加速させる考えであり、営農する個人や法人への支援制度の創設を検討していく。

5)町内の学校再開について

昨年度に「双葉町新学校施設整備基本計画」を策定し、「認定こども園・義務教育学校」を令和10年4月に開園・開校することを決定した。現在は、施設整備の基本設計を進めているところであり、町民の皆さんも利用することを想定した地域に開かれた学校、子供たちと共に学ぶことができる新たな学びの場を創設することを目指している。

カリキュラムについては、0歳から15歳までの保育・教育に対応し、幼少期から外国語や異文化に親しむ活動を取り入れるなど、特色がある学びが展開できるように検討を進めている。

6 説明

- (1)町の復興状況について (横山復興推進課長)
- (2)特定帰還居住区域の立ち入り規制緩和について (中里住民生活課長)
- (3)特定帰還居住区域復興再生計画の改定について (中里住民生活課長)
- (4)営農再開の状況について (中野農業振興課長)
- (5)学校再開の取組について (館下教育長)
- (6)令和8年度町税の課税の方向性について (大浦戸籍税務課長)

7 懇 談

(羽鳥 男性)

学校と移住について、移住の促進が現実的である。令和10年に新しい学校の開校を目指しているが、子供たちの人数はどのくらいを予定しているのか。学校ができ、子どもたちがいない状況にはならないようにしなくてはならない。移住対策は大事。先ほど、お話ししていた民間住宅増加というのは深谷か。

(伊澤町長)

蛭子堂である。

(羽鳥 男性)

深谷では環境が悪いと思っていた。深谷の土地はどのようにするのか。中学校の北側は環境的にすごく鬱蒼としている。環境を良くして、造成、誘致していかなければならない。

駅東の魅力あるまちづくりには、現状から区画整理をしながら、地主の協力を得る必要がある。長塚、新山はかなりの方の協力は得られるかと思う。区画整理は地主のメリット、デメリットがあると思うが、現状をどういうふう考えるかだと思う。解体して、土地売買すると、入ってくる方の環境とかも、魅力があるかどうかだと思った。駅前には区画整理していくと良いと思うし、魅力あるまちづくりにつながる。色々なことを考えて、人口対策などはそうなっているのかお伺いしたい。

(館下教育長)

子供の数は、いわきの仮設校舎も今年で12年目となり、幼稚園、南北小学校、中学校で31名いる。令和10年4月に開校目標であると公表してから、すぐに保護者に向けた説明会を開催し、意向調査を進めている。一回だけの意向調査だけではなく、子どもたちの状況や保護者の意向も踏まえて、複数回実施し、丁寧に進めさせていただく。

今、双葉町内の駅西住宅には2歳児から小学校6年生まで13名の児童がおり、なみえ創生小・中学校等に区域外就学している。通学は町で契約しているタクシーで送迎している。こちらの方たちにも、意向調査を進めている。区域外就学していることを踏まえると、就学先に友達が多いということもあるため、木幡さんが心配されていることも理解している。

新しい学校では双葉町ならでの学びとして、日本語教育だけではなく、幼児教育から、英語に親しませ、浸らせる。そして、義務教育学校9年間の中で、英語のコミュニケーションも取れるような国際人の育成を1つの目玉にし、全国からの教育移住も視野に入れている。

(伊澤町長)

ご指摘あった場所は、駅西地区の災害公営住宅と再生賃貸住宅の西側にある蛭子堂である。この8,700平米の土地を民間活用で分譲や住宅、再生賃貸住宅等で整備するため、現在公募している。民間を活用して、なるべく早期に賃貸住宅等の整備ができるよう取り組んでいる。

深谷の土地については、決定ではないが、構想はある。深谷地区は特に軟弱地盤で、建物の建設が

厳しいことは皆さんもご存じだと思う。町に戻り、農業を再開する意向があれば、当然それを優先してもらいたい。そのような意向もあまりないので、この地区は公園として整備していきたい。福島市の花見山公園のように木を植えることで、全体的な景観が整えば、移住をされた方、帰還をされた住民の皆さんの心身の健康増進の場所になればいいと考えている。

駅東の区画整備については、令和7年度に策定した駅東地区まちづくり基本構想の中で、双葉町の生活文化を継承し、復興を牽引する生活機能の充実した拠点を目指すとして、駅前周辺に子育て支援や交流の場を整備し、歩行者中心で快適かつにぎわいのある空間を形成し、あわせて新山地区では多様な世代の住宅ニーズに応えるため、戦略的な住宅整備を進めていくとした。役場の北側には、今年8月1日にイオン東北のスーパーマーケットの出店、さらにコミュニティーセンターは、将来的に宿泊機能や待合ライブラリ、観光案内所等を整備し、公設商業施設として、旧体育館跡地に、居酒屋、鉄板焼き、カフェを整備する。FUTAHOME は、地域活動拠点としてチャレンジショップや日替わりカフェ等を進めている。いずれにしても駅東の駅前通りの両側は、将来的にまちの中心地となるようにいろいろな機能を整備し、将来的には広げていく考えで取り組んでいる。

(羽鳥 男性)

将来、駅前道路を中心にして、どのような計画になるのか。町長が言われた住宅の整備も含め、商店街がどこまでできるかばかりではなく、町並みが重要であるから、私は先ほど区画整理と言ったが、元の住宅に住んでいる方もいる。他町村でも、ある程度町が力を入れて、まちづくりの事業を進めているという話も聞くので、双葉町もそうであればいいと思った。

(横山復興推進課長)

先ほど町長から説明があったとおり、駅東地区の基本構想を策定させていただいた。駅前と町民グラウンド周辺、新山で3つのエリアに分け、それぞれの特徴を生かして整備を進めていく構想である。駅東側駅前通りはイオンをはじめ、双葉駅から6号線までの道路も含め、歩道等も綺麗に整備する。周りに駐車場を配置することで、駅前に歩いてきてもらうように案を作り込んでいる。町民グラウンドは水辺の空間があるため、その地形を生かした形で進めている。新山は新しい学校ができることから、ファミリー向けの住宅等を整備していくことで構想がまとまった。地権者への意向調査も実施し、結果も踏まえて、策定している。地権者から、例えば、売りたい貸したいという意向が大きくまとまれば、開発できるような場所となってくる。たたき台として、この構想をもとに、今後皆様へのご意見もいただきながら、住宅地や施設の場所を決めていくように進める。

(羽鳥 男性)

町がいろいろな観点から説明をしていくことも大事である。今の状況で売りたいという話なのだろうが、区画整理後は将来のまちの姿であるから、田んぼの基盤整備のように、地権者に説明が必要である。今は道路も狭い。単なるアンケートだけでは、形は変わらない。まだそこまでは考えていないということなのか。

(横山復興推進課長)

まず、地権者がどうお考えか、先に調査が必要と判断し、実施した。調査の中で、売りにたくない、自分で使いたいという方もいるので、区画整理をやってしまうと、買いたい方が使えなくなる。まずは構想の姿を見ていただいて、これについてご意見をいただきたいというような形で、駅西地区のように面的整備はさすがに難しいと考えているので、またこれを元にどのように整備していくかは、また皆さんといろいろご意見をいただきたい。

(羽鳥 男性)

区画整理は大変だと聞いている。今の状況で進んでいくと、元の町になる。それはそれでいいのだが、どうせなら、新しい人たちにも、魅力的な住みやすい町の姿になってくれればいいと思う。そのような観点から、考えていただきたい。

(横山復興推進課長)

ご意見としていただいた。通学路等は拡幅するイメージはしている。

(長塚二 女性)

母が101歳で本当に町のおかげで、長生きできて、一周忌を迎えた。お墓参りに、家族が16人ほど集まって、遠方から車で双葉町に来た。その際、トイレ事情が問題だと感じた。土日であると役場が閉まっているので、伝承館や双葉町産業交流センターまで行くしかない。駅前のトイレは男女で一つずつ設置されていて、手洗い場が汚い。当時のコミュニティーセンターは商工会の下にトイレが設置されており、使用した後は、お弁当が食べられるような広場があった。そこでお昼の待ち合わせしたときもあった。駅が新しくなり、トイレや広場があると思ったら、少し汚いトイレがあるだけ。以前は、出入り口にノートがあって、利用した人の名前の記載がされていた。それを見て、少し安心感もあった。役場や駅、イオンができて、友達にイオンのトイレがあると聞いたが、いくつトイレが設置されているのか。日曜の双葉駅前には町外の方がたくさんいて、周辺を歩いているが、トイレが使えない。これから家を建てたりする作業の人はトイレを使用する際は伝承館等まで行っているのか。

今日、町政懇談会に参加して、町民の参加人数が少なかったもので、どのようにすれば集まってもらえるのか、私のように些細なことでも行って聞いてみようと思えるにはどうすればいいのだろうかと考えた。町長と直接話しができる機会であることを、もっとみんなに知ってもらわなければならない。私も74歳になり、毎年運転もできない。10年後、駅前の父が求めた土地に自分で戻り、喫茶店でもやろうかなと考えていたが、息子たちとは、家族みんなでは戻って来られないし、手放すしかないという話になった。

今回教育長の熱心な構想を聞き、テレビ番組で、とある家族が保育園や幼稚園の教育方針が良かったために、家族みんなで引っ越してきたという番組もやっていた。これから少子化が進んでいく中、これだけの人数しかいなくて、立派な学校を作って、人が集まってくるのかと心配になった。以前、浪江のいこいの村に泊まった際に、地震による避難指示が発令されていたが、時々こんなことが起こるのかと思

ったら、やはり子供たちが安心して住める町でないといけないと考えた。お話ししていただいた学校の話は素晴らしくて、本当に町外から子供をこの学校に入れたいという人がいて、子供たちをたくさん連れて来られるぐらいのまちづくりだといいと思う。

(横山復興推進課長)

私からはトイレ事情についてお話しする。駅前のトイレは外トイレのため、少し汚いかもしれないが、先ほど説明したコミュニティーセンター改修の際に、令和9年度開館に向けてしっかりと使える公衆トイレを整備する。それまでの期間はイオンの外トイレをご使用いただければと思う。イオンの営業時間内8時から19時であれば、土日問わず利用可能である。

(長塚二 女性)

町にこれだけの予算があるのに、駅に降りたら、駅のトイレがない。都会にはどこの駅にも綺麗なトイレが整備されている。

(伊澤町長)イオン双葉店は公設民営施設なので、町で建て、イオンにお貸ししてる。トイレも、イオンの営業時間に限られるが、常に利用できるように整備している。復興推進課長からお話ししたとおり、普通に使っていていいように、外から入れるように整備してある。駅前のトイレは昔のままで、あまり綺麗ではないが、掃除は年間契約している。今回ご意見をいただいたため、業者にはもう少し丁寧に掃除をさせる。

また、人が戻る、戻らないというのは、本来の町民が戻るものがベストではあるが、震災から14年半が経ち、それぞれの避難先に根づいてしまっていて、戻りたいけど戻れない等、さまざまな状況がある。町として戻っていただけるような取組を今後していくのが一番大切だと思う。ご指摘のあった旧新山鴻草線周辺は、すべて解体されていれば、思い切って拡幅をして、道路整備をしようという考えができたが、解体申請をしてないところが何件もあり、不公平感が出る。解体していないと、補償費の部分で変わってくる。駅西住宅整備の際も、補償費を出している。家が残っていた方には、その家の規模に応じて、補償費を出して対応した。道路に関しては、家があるかないかによって補償費の額に差がでて、問題が発生する。皆さんの帰還意向をしっかりと把握させていただきたい。町の事業に協力するという町民の意向があれば、拡幅等の区画整理もできるようになるが、土地利用や帰還意向があれば、区画整理が出来なくなる。できる限り駅東の駅前通りの道路両側は、町の復興の状況を皆さんに感じていただけるようなエリアにするため、しっかり作り込んでいこうと取り組んでいる。

皆さんにご理解していただきたいことある。今、国の支援制度で、高速道路や医療費の減免があるのは、町が存続しているからということ念頭に置いていただきたい。戻ってくる人がおらず、住む人がいなければ、町は存続できない。町が存続できないと、皆さんは避難先に住民票を移さざるを得なくなる。戻ってくる人、戻ろうとする人たちをある程度支援する考えを持っていただかないと、町の存続が厳しい。今現在戻れない人、戻ろうと思ってもなかなか厳しい方たちも含めて、その理解をしていただくことが、町の存続につながると思う。決して、私利私欲で町の存続ということを考えているわけではない。双葉町が何か問題を起こして、トラブルがあったわけではない。何の問題もない自治体が段々と

埋没していくのは、私は許せない。犠牲になっているばかりではなくて、どうやって町を復興させるか、どうやって人を呼ぶことができるか、どういう魅力のあるまちをつくるかを、我々はやっていかなくてはならない。限られた人数で、国や県、各自治体からご支援をいただいて、何とかやっている状況である。

この場は多くの町民の皆さんのご意見を伺うための町政懇談会で、先ほど参加者が少ないというご指摘があった。今まで、郡山市で開催する際は農業総合センターを利用していたが、残念ながら今回郡山市労働福祉会館の開催となった。郡山市に避難されている町民の皆さんは農業総合センターで開催するイメージがおそらく強いと思う。皆さん勘違いしている部分もあるかと思う。去年は約20人集まっていたが、幅広い質問やご意見をいただいている。町民の皆さんに周知はしているが、他の自治体もお話を伺う限り、町政懇談会は出席者が少ないことで悩んでいる。町政懇談会を実施しなくなった自治体もある。隔年ではなく、双葉町では当分の間、継続しようと思っているが、余りにも出席率が低い場合は、何か新たな方法を考えなくてはならないだろうと思っている。

(館下教育長)

先ほど設計プロジェクトについて話したが、目指す学校像の中で備える学校や、子供や地域の安心安全や災害に強い学校として、レジリエントスクールを検討している。施設だけではなく、子供たちには復興に向けての教育等も進める。町全体で災害に対し、しっかり安心安全が担保できるような施設を目指し、カリキュラムにも反映させたいと考えている。お話しいただいたとおり、双葉の学校に行けば、子育てもできて、すばらしい教育が受けられるということをお示しして、子供たちやその家族が来てくれればと思う。

(羽鳥 男性)

今回の立入規制緩和について、対象区域とそうではない区域もあるということだが、除染は現在進んでいるのか。期間も教えてほしい。

(建設課松尾支援員)

9月時点で除染対象82ヘクタールのうち34%、28ヘクタールが除染済み。今後の見通しは、10月時点で進捗率5割強、今年度末には8割ぐらいの進捗を目指している。

(羽鳥 男性)

それはいつまでやるのか。

(建設課松原支援員)

下長塚、三字、羽鳥については、松尾から申し上げたが、大体34%の除染が9月半ば時点で済んでいる。3行政区の今後の見通しは、今年度末までに8割を超したいと思っている。鴻草、渋川、寺松、山田、石熊、細谷の一部も今回特定帰還居住区域になっており、これらの行政区は5年以内の避難指示解除を目指して、除染を進める。住民生活課長からも申し上げたとおり、道路や下水道、上水路を直す作業を全部含めて5年以内で作業を終わらせて、避難指示解除したいと思っている。それが資料の地図でお示ししている濃い赤と薄い赤である。白い区域は、避難指示解除を目指すとか、いつ除染する

かということは決まってない。この区域については、1日も早く全域解除するように、震災から、ずっと町が国に求め続けていることであるため、変わらず国へ要望していく。

(中里住民生活課長)

松原支援員が申しあげたとおり、配布資料の中の地図にある薄い赤の部分について、2020年代をかけて、避難指示解除していくというのが、国との約束となっている。どこの会場でも町民の皆さんには、それでは遅いというお叱りを受けるが、3行政区については、令和8年度中の解除を目指すと、初めてその目標をお話することができた。町域の85%が帰還困難区域という状況ではあるが、なるべく早く解除ができるように、町としても、国へ強く申し入れていく。避難指示の全域を解除するという強い思いを持って、町長以下事務方も、一生懸命やらせていただく。その時期が来たら、一刻も早く皆様にお示しをしていきたいと考えている。

(下条 女性)

駅コミュニティーセンターは令和9年度開館予定とあるが、現時点でこの施設に入る各機能について詳細をお聞きしたい。この施設ができることによって流れが少し変わってくると思っている。

(横山復興推進課長)

担当は総務課で現在改修工事を行っている。簡易なホテルを想定しており、町内にできるホテルと、差別化を図りたいと考えている。公募をかけて運営者も決定したので、どのようなホテルがいいかを検討している。トイレや待合ライブラリ等の機能を設けて進めていく。

(伊澤町長)

少し補足する。町内にはアルムシステムのホテルが町産業交流センター南側にあり、東日本大震災・原子力災害伝承館北側にダイワライフネクストホテルが建設されている。駅前のコミュニティーセンターは新たなホテルではなく宿泊施設程度である。アルムシステムが普通のビジネスマン向けで、リーズナブルな料金で泊まっていただけ。大和ライフネクストは少しグレードが高く、インバウンド向けのホテルとなる。駅前に整備する宿泊施設は、バックパッカー等、安く泊まりたい方向けのホテルになる。お互いのホテルを競合させないように、様々なニーズに合うように取り組んでいる。素泊まりだけでいい方がいれば、食事等は提供されないの、イオン双葉店で購入していただき、料理する場所、調理場も宿泊施設に整備していく。そこで料理して食べていただき、安価に泊まっていたような施設で構想している。

(下条 女性)

宿泊機能を整備するということは、シャワーも設置されるのか。

(伊澤町長)

はい。

(下条 女性)

コミュニティーセンターにトイレができるというのは、現在センター内に残っている、男女各1つずつ

設置されたトイレをそのまま活用するということか。

(森副町長)

トイレについては、今のトイレを改修し、整備を進めていく。現在詳細を詰めている段階のため、内容がわかれば、周知したい。

(下条 女性)

そう言っただけだとありがたい。気になさる方がいるので、ご配慮いただきたい。

先ほど地権者の話があったが、判断がつきにくい方もたくさんいると思う。地権者が使っていいという地区はまとまっているのか。

(横山復興推進課長)

ある程度まとまったところも見受けられるので、そこを中心に住宅等を整備するように検討しているところである。

(下条 女性)

南・北小学校の利活用はどうするのか。南小学校は清戸迫横穴墓があって、今後震災遺構として残すと思うが、北小はどうするのか。動きが見えないので、今後どう活用するつもりか。

(森副町長)

北小、南小学校ともに校舎を残す予定である。南小学校は現存のものを見ていただき、北小学校は民間活用するという事で検討し、そのスキームを総務課の方で考えている。内容が分かれば改めて周知したいと思うが、おそらく民間に貸し付けるイメージである。プロポーザル等を経て、業者選定していくが、現在検討中である。

(下条 女性)

これから専門家を交えての話し合いになっていくだろうが、地域の方たちの意見を尊重し活用していただきたい。

今日の感想になるが、私も久しぶりに町政懇談会に参加し、前回は白河会場に参加した。町長とお話できる機会もない中で、ご多忙にもかかわらず、町政懇談会を開催していただいたのは、町民の声を聞くことが大事だからだと思う。町の存続の話等、町長が小さなことでも丁寧に質問に答えてくれるので、もっと町民が参加できるようになればいいと感じた。町長のほかに、副町長、教育長、課のトップの方々が来ていただいているが、形式的な感じになると、私も含め町民は少し言葉を選んで話さなくてはならない。雑談的なことはたくさん話せるが、形式的な場だとうまく話ができない。先ほど、町長が、今後の町政懇談会のあり方を考えなくてはならないと言ってくれたので、その時はよろしく願いたい。

(長塚一 男性)

町政懇談会の郡山会場の参加者が4人だけしか集まらないのは困った問題である。いろいろ工夫していただかないと、町への愛着や考えがどんどん離れてきてる。双葉町へ帰る人間が少しずつでも増

えていかないと町の復興にはなかなか難しくなってくる。私も帰ろうとも思っていたが、町には人がほとんどいないし、我々年寄りが帰っても、生活がかなり厳しいし、病院に行くのも難しい。いろんな事情があるし、一旦避難先に家を購入してしまったから、難しい面がいっぱい出てくる。少しでも町に関心を寄せて、子供も帰ってくるような方策を考えていただきたい。いろいろ考えておられるんだと思うが、知恵や、そういう機関等を活用しながらも、どういう方策をしていけば、町に関心を寄せてもらえるか。今家を解体しているが、いろいろな事情でなかなか帰る決心がつかない。町営住宅の建設や、病院は他の市町村と連携を取ったり、交通手段も考えてもらったり、いろんな手段をもう少し考えながら、町の復興を進めていただきたい。

(伊澤町長)

私は一番先に戻ると宣言し、ホテルに1年住み、その1年後に家建てて住んでいる。誰もいないから戻らないということであれば、いつまでも戻ることはない。最初から人がいないところで戻り始める人が増えなければ人は戻ってこない。

医療の面では、駅西の災害公営住宅と再生賃貸住宅の中に、診療所を作った。週4日営業している。二次医療を完結するために、県と交渉して、県立大野病院も再開することが決まった。ある程度の病気に関しては対応できるようになっている。

14年半経っていると、ほとんどの家屋が残せないぐらい荒廃している。人が住まないで15年も経ってしまうと、それを修繕して住むことは厳しい。私も休みのときに町内を歩いて、避難指示解除したところを回っているが、ほとんど解体している。理由は野生動物が入り、家が閉めっ放しでカビ臭くなったために、家の状況が酷く、壊さざるをえない。震災から14年半も経ち、それぞれの避難先で自宅を再建しているのに、戻ってきて家を建てるのは、経済的負担が大きいと考え、町として、昨年6月から、双葉町に住民票のあった方が新たに家を再建する場合、町と県から800万円を補助することになった。

さらに住む場所が少ないことから、民間活用で双葉町の事業者を優先的に補助を出した。民間の住宅を建てる時に、底地の建物の跡地の40%、建築費の35%を町で補助する。町の事業者を活性化させるために制度を作った。町外の事業者が関心を持って、問い合わせもきている。

大和ライフネクストのホテルで、従業員のための宿舎兼社員寮とそれ以外の賃貸のアパートとして38室が、町職員が多く住んでいるアパートの隣の土地に建築中である。

町の補助制度を使って、アパートを作りたい方が少しずつ出てきている。少しずつ住宅状況は変化してきている。

駅西住宅の西側も民間活用で公募をし、賃貸住宅が建設される予定である。町営住宅等も必要だが、どのぐらい皆さんが戻ってくるかがははっきり掴めない。公費ではなく、なるべく民間を活用し住宅を建てて、皆さんのニーズに応えようと取り組んでいる。町営住宅は将来的に必要で、入居者の見込みがあれば、今後検討していかなければならないと思っている。

(羽鳥 男性)

農業について、私もお世話になり、羽鳥地区も申請する段階に至った。現在、放置し続けてきた田んぼが荒れ果てている状況である。下羽鳥はほ場整備をしたが、他の地区は基盤整備である。食料問題も重要な時期になり、せっかくのチャンスである。まず担い手の状況と、基盤整備事業に水田計画があるのかをお伺いしたい。復興の担い手、あるいは、整備をして、担い手が受けてくれるような姿にしていけないといけないと思う。

(中野農業振興課長)

上羽鳥地区は、下羽鳥の生産組合が地元の方と調整して受ける形で進んでおり、基盤整備事業で、水稻、もしくは麦、大豆になるかと思う。中田地区は今後、測量設計が入っており、50町歩近くあるので、3年に分けて計画をしている。農業法人の株式会社耕福が入り、野菜を作る。転作なので、水稻でも、野菜でもできる。下長塚も基盤整備になるが、同じように、水田ができるような基盤整備になる。担い手は先ほど説明した耕福で予定している。両竹地区は、意向調査を実施しているが、ほ場整備もしくは基盤整備になることを踏まえて、耕福からはやりたいとの意向もあり、両竹地区との調整となる。三字地区は、石川県の農業法人である安井ファームで、野菜を作っている。こちらの基盤整備は、水稻ができるような形になるが、転作になる。耕福は、町内全域で大体 85 ヘクタールを予定し、安井ファームは30ヘクタールになる。羽鳥、長塚、上羽鳥は、下羽鳥の生産組合で、大体50町歩近くになるかと思う。解除区域はそちらで賄うようにしているが、町なかについては面的な広がりがないので、個別に対応することになる。

(羽鳥 男性)

担い手と言われる人が入っているが、地区全部の農地を受けてくれるかということ、そこはまだ分からない。全地区全面積の中で、転作等いろいろあるようだが、全部の水田や農地が、ほ場整備、基盤整備されて、例えば中田地区ならば、泥炭の土地なので土質改良しなければならないが、そのような計画もなく、基盤整備でやるということでは、限られた作物しかできないと思う。水田は、泥炭のところに入力を入れてやらなければならないが、地区の人たちと、今後の農地利用の話をしなければならないがどうなのか。

(中野農業振興課長)

中田地区は、地元の方から基盤整備をして欲しいというお話だった。泥炭の話も地元の方だからこそ分かってる話であって、測量設計の中で、暗渠と二次製品の U 字溝などを入れながらの水路をやっていかなければならないし、ちょうど真ん中に排水路があって、北と南側から水路が行くようになるので、そこを踏まえたような形での基盤整備、当然設計をした暁には、地元の皆さんにお示ししてから、進めていいかどうかということで同意をもらってからの施行になる。

地元と調整はさせていただく。

(羽鳥 男性)

基盤整備とほ場整備について理解不足であるが、基盤整備でも水田にしても差し支えないような、暗渠というものができるといふことで理解した。畑作に特化した形で担い手の人たちがやっていけるように進めているが、転作もでき、いろいろな作物ができるように整備をよろしくお伺いしたい。

閉会 16時02分